

J R 四 国 労 組 ニ ュ ー ス

2023年2月10日（No.18） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

第 3 6 回 定 期 本 部 委 員 会 開 催



実りある結果を得るため、組織一丸となって「団結ガンバロー」

2023 春季生活闘争方針を
満場一致で決定！

今後の J R 四国労組運動の
土台となる労働政策提言
『ユニオンビジョン 2023』
を策定！

J R 四国労組は2月6日（月）、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」にて第36回定期本部委員会を開催。本部委員及び特別本部委員、傍聴者全員が会場に集結し、来賓含め約100名出席のもと「安全・安定・安心輸送の確立」「2023春季生活闘争」「政策課題解決」「統一地方選勝利」など当面の取り組みについて満場一致で決定した。



大谷執行委員長

冒頭、執行部を代表し挨拶に立った大谷執行委員長は、日夜、職場で奮闘する組合員に敬意を表するとともに、コロナ禍も3年が経過し、行動制限の緩和や人流の回復、新型

コロナ5類引き下げの動きなど、明るい兆しが見えてきたと述べた。その後、当面の取り組みについて、本委員会で提起する労働政策提言『ユニオンビジョン2023』に触れつつ所信を表明。目前に迫った春闘について「J R 四国並びにジェイアール四国バスは依然として経営改善が見通せない状況下であり、厳しい交渉が想定されるが、誇りを持ち、安心して働き続けることのできる環境づくりに向けた組合員の想いを結集した提言を活用しながら交渉に臨む。『人への投資』を何としてでも勝ち取り離職問題を解決しなければ、企業の存続も危ぶまれる。労働条件がキーワーカーに相応しい水準になるよう、効率化などによって生み出された成果を人財へ還元するよう強く求めていく」と決意を述べた。

議事では、執行部より定期大会以降の経過、当面の取り組みや『ユニオンビジョン2023』を提起。各支部・各専門部会・青年女性会議を代表する11名の本部委員・特別本部委員より春闘方針、業務課題、離職・要員問題、ユニオンビジョン2023等に関する質疑を受けた後、すべての議案が満場一致で可決され、最後に2023春季生活闘争を闘い抜き、組合員の明るい未来をつくりあげるべく、大谷執行委員長の「団結ガンバロー」で定期本部委員会を締めくくった。

以上



連合香川 福家会長



四交連 砂田議長



山本香川県議



橋本高知県議



JR 連合 宮野局長



交連共済 浅岡本部長

